



## 平成30年度定期総会開催

愛知借行会 副会長

水谷 登

平成30年度定期総会は、5月13日、例年通りホテル・ルブラ王山二階金鯨の間にて、来賓・会員総勢43名の参加を得て開催された。

陸自71期森部直民副事務局長の司会で、例年のとおり国歌斉唱、戦没者・殉職自衛官及び当会物故者に対する黙祷をもって本会は進行した。

水野会長挨拶では、サンフランシスコ講和条約が発効した昭和27年、および翌28年における当会発足当時の歴史が紹介された。フィリピンのモンテンパ戦犯収容所に収容されていた諸先輩の解放とご帰国、その切っ掛けとなった歌「モンテンパの夜は更けて」と歌手渡辺浜子さんの逸話を紹介され、併せて、旧軍人の公職追放が解除され、ようやく旧軍人の会が結成可能な時代が到来した情勢のもと、旧軍人（従来会員）の方々が自信を取り戻す足掛かりを獲得できたことなどが紹介された。

参会者一同、若かりし或いは幼かりし

日に思いを馳せつつ、当会発足にかけた諸先輩（従前会員）の方々の並々ならぬ「思い」に接し、当会活動の意義について再認識する機会となった。

次いで、松本副会長（陸自70）を議長に選出、同氏の進行により、第1号議案平成29度事業報告、

会計報告、会計監査報告

第2号議案平成30年度事業計画（案）

第3号議案役員選任（案）と審議が進められ、満場一致で承認された。

議事審議終了後、借行社副理事長深山明敏様のご挨拶では、中央の活動の方向や事業の方向が地方において反映されていることを確認できてうれしく思うとの前置きの後、借行社が現在努力していることは会員増勢及び財政健全化の2点であり、現在白石副理事長を中心として「将来問題検討会」を立ち上げ鋭意検討を進めている。

新入会員の獲得に関して会員の現状は6千名余りでその約半数を元幹部自衛官が占めるところであるが、年間約190名が入会するものの、その約半数が退会等して行き、定着率の向上が課題であり、改善策の提供についての要望があった。

財政健全化については、現状、約455千万円ほどの年会費等の自足会費を更なる会員獲得により増やして行きたいとし、会員の増員と定着に向けて中央と地方が一体となった活動を強力に進めるべ

く要望された。最後に、第10副師団長兼  
ねて守山駐屯地司令池田頼明様及び第10  
特科連隊長兼ねて豊川駐屯地司令からの  
祝電が披露され、定期総会を終了した。

小休憩後水谷登副会長のリードで、偕  
行百年」のレッスンを行い、参加者全員  
が歌詞を見ながら歌えるレベルまでにな  
ることができた。

2度目の小休憩の後、当会の顧問、防  
大同窓会東海支部会長赤谷信之先生（陸  
自69期）による「10式戦車、16式機動戦  
闘について」と題して記念講演会がおこな  
われた。講演では、この2種類は、2千  
年代に入ってから以降陸上自衛隊での僅か4  
種類しかない新規開発装備品のうちの代  
表格であり、特に10戦車の性能たるや世  
界随一である。特に主砲の射撃性能のう  
ち、スラローム射撃（目標は勿論、我  
が方も移動中に命中させる射撃）ができ  
るのは、我が10戦車のみである。また開  
発の手法についても、抜本的改革がなさ  
れたこと等、PCプロジェクターを駆  
使しながら興味深い内容を披露された。

続く懇親会は、空自75鈴木和義副事務  
局長の司会で進行。宴は水野会長挨拶、  
甲斐芳樹第10師団長挨拶に次いで高羽伸  
浩愛知縣護国神社宮司の発声による乾杯  
で開始され、相互に本会へ参加できる健  
勝を称え合い、情報交換、意見交換、記  
念撮影等で親交を深めつつ陸軍士官学校  
校歌、陸上自衛隊幹部候補生学校校歌等

で盛り上がり、最後に陸自68木原文雄愛  
知県隊友会長の発声で万歳三唱、松本副  
会長の閉会宣言で閉幕した。



陸軍士官学校校歌の斉唱



陸自幹部候補生学校校歌斉唱